

大 学 編 入

教 科 目 名	基礎英語	担当教師名	持冨 勇一
	Basic English	方法・必選	講義・選択
科・年・期	全学科・1年・前期	単位・時間	1単位・15時間

[授業の目的・方針]

TOEIC テストのリスニングセクションに的を絞り、各パートで必要とされる表現について学ぶ。

[履修に必要なこと]

高校卒業程度の英語力を要す。常時英和辞典を用意する事。

[成績評価方法]

読解力・積極的発言・定期試験を総合的に判断す。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	練習問題	状態を説明する表現
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		会話文問題で役に立つ表現
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		丸ごと覚える定型表現
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		よく出る場面別表現
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		
第 15 回		

教科目名	英会話 English Conversation	担当教師名	持富 勇一 講義・選択
科・年・期	全学科・1年・後期	単位・時間	1単位・15時間

[授業の目的・方針]

オフィス環境全体を視野に入れ、電話・パソコン・会議・交渉・人事まで幅広いジャンル、特にマルチメディアを重視したビジネス英会話の習得を目指す。

[履修に必要なこと]

[成績評価方法]

記述式が中心の定期試験を行う。受講態度を加味して評価する。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項目	内容
第1回	ビジネス英会話	電話とオフィスコミュニケーション
第2回		
第3回		
第4回		ワープロ、パソコン
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		セールス、会議、交渉、契約
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		生産、財務、総務、交際、出帳
第13回		
第14回		
第15回		

教科目名	ドイツ語 I	担当教師名	坂井 済
	Deutsch I	方法・必選	講義・選択
科・年・期	全学科・2年・前期	単位・時間	1単位・15時間

[授業の目的・方針]

日常生活の様々なシーンで必要とされるドイツ語の力を身につける。基本的文法をふまえて聞く・話す・読む・書くの4技能を総合的に学習する。

[履修に必要なこと]

独和辞典を用意する事。

[成績評価方法]

授業態度・小テスト・定期試験で総合的に判断する。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	表現演習 聞く・話す 読む・書く	ガイダンス アルファベットとスペリング。 挨拶と自己紹介。
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		文法の確認①
第 6 回		数字について。 年齢と時間について。 出身や住まいについて。
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		文法の確認②
第 11 回		他の国、言葉、首都について。 勉強について。 アルバイトについて。
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		
第 15 回		定期試験

教科目名	ドイツ語Ⅱ	担当教師名	坂井 済
	Deutsch Ⅱ	方法・必選	講義・選択
科・年・期	全学科・2年・後期	単位・時間	1単位・15時間

[授業の目的・方針]

ドイツ語Ⅰの内容を更に発展させる。自分で辞書を引き理解できるレベルになることが目標。

[履修に必要なこと]

独和辞典を用意する事。

[成績評価方法]

授業態度・小テスト・定期試験で総合的に判断する。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	表現演習 聞く・話す 読む・書く	ガイダンス ドイツ語Ⅰの文法の復習 形容詞を使った表現
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		文法の確認①
第 6 回		時制を使った表現 現在・未来・過去・現在完了
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		文法の確認②
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		頻度を表わす副詞を使った表現 接続法を使った表現
第 14 回		
第 15 回		定期試験

教 科 目 名	微分積分 I	担当教師名	本田 薫
	Differential and integral I	方法・必選	講義・選択
科・年・期	全学科・1年・前期	単位・時間	2単位・30時間

[授業の目的・方針]

工業系の技術に必要な微分積分の基礎を学ぶ。極限の計算ができること、基本関数の微分計算ができることを目標とする。

[履修に必要なこと]

高校程度の数学の知識を有すること。

[成績評価方法]

レポート課題を中心として総合的に評価する。

[教科書]

高専の数学 2 田代嘉・難波完爾 森北出版

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	数列	等差数列と等比数列
第 2 回	無限数列	無限数列の極限、無限級数とその和
第 3 回	整式の導関数	関数の極限值
第 4 回	整式の導関数	微分係数・導関数の計算
第 5 回	整式の導関数	接線と速度
第 6 回	関数の増減	関数の極大・極小
第 7 回	関数の増減	関数の最大値・最小値
第 8 回	いろいろな関数の導関数	関数の極限と連続性
第 9 回	いろいろな関数の導関数	合成関数とその導関数
第 1 0 回	対数関数の導関数	対数関数の導関数の計算方法
第 1 1 回	指数関数の導関数	指数関数の導関数の計算方法
第 1 2 回	三角関数の導関数	三角関数の導関数の計算方法
第 1 3 回	導関数の応用	関数の増減と極大・極小
第 1 4 回	導関数の応用	方程式・不等式への応用
第 1 5 回	導関数の応用	方程式・不等式への応用

教 科 目 名	微分積分Ⅱ	担当教師名	本田 薫
	Differential and integral Ⅱ	方法・必選	講義・選択
科・年・期	全学科・1年・後期	単位・時間	2単位・30時間

[授業の目的・方針]

工業系の技術に必要な微分積分の基礎を学ぶ。積分の意味を理解し、計算手法について学ぶ。また、偏微分の基礎について学ぶ。

[履修に必要なこと]

微分積分Ⅰの内容を理解していること。

[成績評価方法]

レポート課題を中心として総合的に評価する。

[教科書]

高専の数学 2 田代嘉宏・難波完爾 森北出版

高専の数学 3 田代嘉宏・難波完爾 森北出版

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	不定積分	基礎的な不定積分
第 2 回	不定積分	置換積分法
第 3 回	不定積分	部分積分法
第 4 回	定積分	基礎的な定積分
第 5 回	定積分	置換積分法
第 6 回	定積分	部分積分法
第 7 回	定積分の応用	さまざまな関数で作られる面積
第 8 回	定積分の応用	さまざまな関数で作られる体積
第 9 回	偏導関数	2変数関数
第 10回	偏導関数	偏導関数
第 11回	偏導関数	合成関数の偏導関数
第 12回	偏導関数	2変数関数の平均値の定理
第 13回	偏導関数の応用	2変数関数の極大・極小
第 14回	偏導関数の応用	陰関数定理
第 15回	偏導関数の応用	条件付き極大・極小

教 科 目 名	線形代数 I	担当教師名	本田 薫
	Linear algebra I	方法・必選	講義・選択
科・年・期	全学科・1年・前期	単位・時間	2単位・30時間

[授業の目的・方針]

工業系の技術に必要な線形代数の基礎を学ぶ。ベクトルの基本演算ができ、3次元空間のベクトルを理解する。また空間上の図形の方程式とベクトルの関係性について学ぶことで、工学的見地での活用能力を身に付ける。

[履修に必要なこと]

高校程度の数学の知識を有すること。

[成績評価方法]

日常的な授業への取り組みと期末試験により総合的に評価する。

[教科書]

高専の数学 2 田代嘉宏・難波完爾 森北出版

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ベクトル	ベクトルの性質と演算
第 2 回	ベクトル	ベクトルの内積の性質と演算
第 3 回	平面のベクトルと図形	直線や円とベクトルの関係
第 4 回	空間のベクトルと図形	空間座標とベクトル
第 5 回	空間のベクトルと図形	直線の方程式と平面の方程式
第 6 回	行列の定義	行列の定義と和の演算
第 7 回	行列の積	行列の積の演算手法
第 8 回	逆行列	逆行列の定義と演算手法
第 9 回	逆行列	逆行列の性質
第 10 回	連立一次方程式	行列を用いた連立一次方程式の解法
第 11 回	行列の基本変形	基本変形の手順
第 12 回	行列の基本変形	行列の基本変形を用いた連立一次方程式の解法
第 13 回	行列式	行列式と基本変形
第 14 回	行列式	行列式の計算
第 15 回	行列式	行列式の性質

教 科 目 名	線形代数Ⅱ	担当教師名	引地 政征
	Linear algebra II	方法・必選	講義・選択
科・年・期	全学科・1年・後期	単位・時間	2単位・30時間

[授業の目的・方針]

工業系の技術に必要な線形代数の基礎を学ぶ。ベクトルと行列の基本演算ができ、連立一次方程式を解くために行列を利用することができるようになることを目標とする。

[履修に必要なこと]

高校程度の数学の知識を有すること。

[成績評価方法]

レポート課題を中心として総合的に評価する。

[教科書]

やさしく学べる線形代数 石井園子

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	行列の復習	行列の定義と和の演算
第 2 回	行列の復習	行列の積の演算手法
第 3 回	行列の復習	逆行列の定義と演算手法
第 4 回	行列の復習	逆行列の性質
第 5 回	行列の復習	行列を用いた連立一次方程式の解法
第 6 回	行列の復習	行列の定義と和の演算
第 7 回	連立一次方程式	行列を用いた連立一次方程式の解法
第 8 回	一次変換	一次変換の定義
第 9 回	行列式の定義と性質	行列式の定義と計算方法
第 1 0 回	行列式の展開と積	行列式の展開手法と積の計算
第 1 1 回	逆行列と連立一次方程式	逆行列を用いた連立一次方程式の解法
第 1 2 回	掃き出し法	掃き出し法による連立一次方程式の解法
第 1 3 回	一次従属・一次独立	一次従属と一次独立の定義
第 1 4 回	行列の階数	行列の階数の定義
第 1 5 回	行列の固有値	行列の固有値の意味と計算方法